

成績概要書（2006年1月作成）

課題分類：

研究課題：小学生を対象とした米作り農業体験学習の効果と受入マニュアルの作成
（道産米の消費拡大を目指した小学生むけ体験学習マニュアルの作成）

担当部署：中央農試 生産システム部 水田農業科、経営科 農業環境部 環境基盤科
協力分担：なし

予算区分：受託

研究期間：2003～2005年度

1．目的

米作り農業体験学習の効果と実践上の問題点を明らかにする。特に体験内容や実施方法を検討し、より高い満足感を得られる内容・方法を検討する。結果をもとに、小学5年生を対象とした農家向けの米作り農業体験学習受入マニュアルを作成する。

2．方法

アンケート調査（小学5年生・中学2年生・保護者）による農業体験学習の効果の把握、農家調査による受入方法と問題点の把握、小学校（教員）への配票調査による実施目的、実施状況及び評価の把握

3．成果の概要

1）小学校を対象とした調査では、農家における農業体験学習は、農業の他の学習方法に比べて、「社会的項目」をはじめより高い評価を受けている（図1）。あわせて農業体験学習は小学生自身や保護者の評価も高い。また、体験回数が多いほど農業への関心は増加する（表1）。このため、農業体験学習を繰り返しおこなうことは、農業への関心を高める効果がある。

2）農業体験学習を進める際に農家が指摘する問題は、効果が感じにくい、受入意思が小学校まで届かない、実施方法がよくわからない等である。小学校側の指摘する問題は、日程調整が難しい、受入農家を見つけにくい等である。このため、農業体験学習の受入拡大に向けて、農家側は、組織的な受入れ体制をとることにより受け手不足の問題解消を進めるとともに、行政等の支援を得て小学校に受入に関する情報発信をすることが必要となる。また、保護者の費用負担意識は多くが1人千円までにとどまる。このため、農家は、農業体験学習受入を、現時点では経済行為としてではなく、将来に向けた農業・農村の理解者拡大の機会として意識する必要がある。

3）受入に際しては、小学生10人に対し指導者1人以上の確保、時期遅れの6月の田植えにも対応できる体制作り（運動会との競合のため）、予備日設定や安全対策に関する協議・確認、相互の役割分担の明確化が重要である。

4）小学生が体験学習を楽しんでいるのは、1位が稲刈り、2位が田植えである。さらに農家側の米の提供と小学校での試食会の開催により、小学生の農や食への関心の高まりと農業体験学習の効果向上が可能となる。また、小学生の水生生物に対する関心は高く、水田で生物と接する体験をすることにより、水田が生産以外の価値を持つことを意識づけることができる。

5）田植え体験で小学生は1人150株（6㎡）を境に痛みや満足感に変化が生じるため、田植え体験に必要な面積を決める指標となる（表2）。田植えは1人2列を受け持つとスムーズな作業が行える。農業体験学習の時間は2時間が限度となる。田植えでは1人当たり田植え株数で、稲刈り体験は稲束を作るかどうか等で作業時間が異なるため、体験内容や時間配分を事前に十分検討する必要がある（表3）。

6）以上をふまえ、農家向けの米作り農業体験学習受入マニュアルを作成した（図2）。

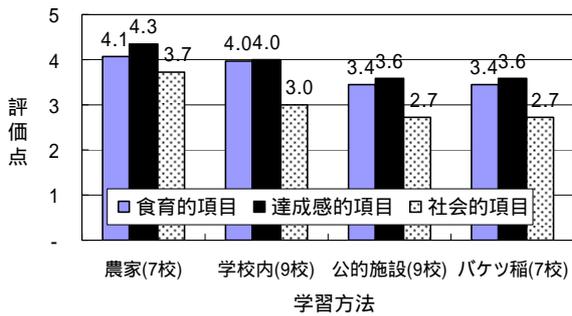


図1 札幌市の小学校による農業体験学習への評価

注1) 札幌市立小学校208校への配票調査(回答64校)、各項目への学習後の目的達成度を5段階評価した。3点が基準値で、3点より高いと目的が達成されたと評価され、低いと達成されなかったとの評価である。

「食育的項目」: 食物への関心、食物への知識、食物への感謝、食の大切さ、季節感

「達成感的項目」: 命を育てる心、自主性・積極性、生産過程、作る喜び、食べる喜び

「社会的項目」: 労働の大変さ、農業史、農村環境、地域交流、地域文化歴史、地域産業

注2) 図中・学習方法の括弧内の校数は各学習方法を実施した小学校の校数である。

表1 過去の農業体験の有無と農業への関心の水準

過去の農業体験	回答比率(%)				計
	関心ある	少し関心ある	あまり関心無い	全く関心無い	
農業体験なし・無回答	1.1	20.7	51.7	26.4	100
1回あり	9.7	35.8	39.6	14.9	100
2回以上あり	20.9	40.3	31.3	7.5	100
平均	9.7	32.3	41.3	16.7	100

注1) 平成16年6月、札幌市C中学校2年生290人に田植え体験学習が終了後配票調査、田植え体験以前の農業への関心について質問

2) 回答数の内訳: 農業体験なし・無回答が87人、1回ありが134人、2回以上ありが67人

表1 田植え量に対する児童の腰痛割合

小学校	調査年次	田植えの量(移植株数)	人数(人)	腰痛者(人)	比率(%)	移動距離(m)
A5	H16	100	27	1	3.7	8
A4	H16	100	106	5	4.7	8
A5	H15	110	53	3	5.7	8
A1	H15	110	26	2	7.7	8
A2	H16	180	143	31	21.7	30
A3	H16	200	51	12	23.5	23
A1	H16	150	37	11	29.7	11
計			443	65	14.7	14.6

注1) 移動距離は田植えの際の前進(前方向への移動)距離

表3-1 田植え作業に要した時間例(H16)

内訳	A1小	A2小	A3小
田植え株数	110株	180株	200株
小学生数	38人	145人	66人
到着から田植 事前説明・苗取り	32分	17分	25分
えまでに要し 移動・説明	11分	9分	9分
た時間 計	43分	26分	34分
田植えに要し 最短終了	10分	-	-
た時間 全員終了	23分	36分	35分
足洗後、身支度終了までの時間	15分	12分	15分
体験後の見学などの時間	19分	10分	30分
合計時間	1時間40分	1時間24分	1時間54分

注) 小学5年生を対象とした作業時間である。

表3-2 A2小の稲刈り体験時間(H17)

項目	時間	備考
到着整列	4分	集合場所前下車
挨拶・注意事項	10分	
移動・稲刈り準備	7分	集合場所の隣接水田
稲刈り	29分	脱穀体験同時進行
落ち穂拾い	10分	
再集合整列	10分	
施設見学	10分	乾燥施設・精米機器
挨拶・帰校	12分	
合計	1時間32分	

注) 小学5年生を対象とした作業時間である。

(同一年の他作業に反映)

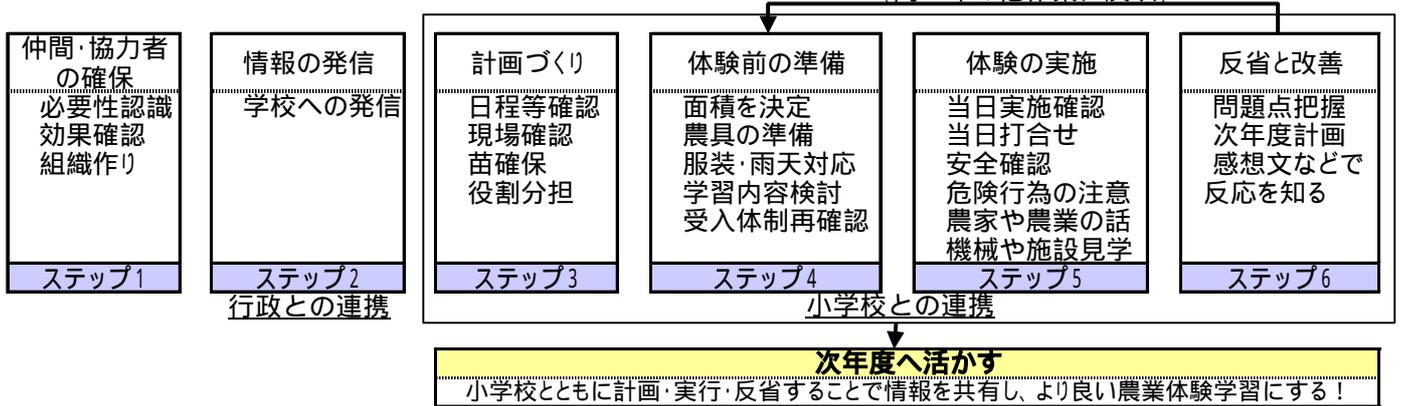


図2 米作り農業体験学習受入マニュアルのフロー図

4. 成果の活用面と留意点

- 1) 小学校高学年の農業体験学習の受け入れに際して活用する。
- 2) 親子体験学習など消費者交流活動を実施する際の参考とする。

5. 残された問題とその対応

- 1) その他作物については、各作物の特性に合わせた対応が別途必要である。